大学サッカー選手におけるパスの種類と成功率の関係

松尾和樹（競技スポーツ学科　コーチングコース）
指導教員　山田庸

キーワード：ボランチ，テンポ，リズム，プレーエリア

1. 緒言

近年のサッカーにおいて，ボランチと呼ばれる中盤選手の重要性が増している．ボランチとは，ピッチの中央でディフェンスとフォワードのちょうど真ん中に位置し，攻撃と守備の両方に関わり，ボールに触る回数も多い．ボランチがディフェンダーからボールを受け，経由地点となることが重要になる．ここでボランチがボールの落ち着きどころになれるかが，ゲームを支配できるかに直結するといっても過言ではない．

田村（2013）はサッカーにおけるゲームメーカーの研究を行っている．ボランチ選手がボールに関わり正確なパスを行ったかによってゲーム展開が左右されていた．トップレベルのボランチと比較すると大事な場面ではファウル寸前のプレーで攻撃を止めており．勝負への執着心が異なっていた．

そこで本研究では，ボランチタイプの異なるプレーヤーを比較し，パスの種類と頻度からその特徴を検証することを目的とした．

2. 研究方法

対象試合は大学サッカーのリーグ戦に常時先発する 2 名とし，A 選手は攻撃的選手，B 選手は守備的選手として選定した．対戦相手のレベルがかたよらないように対象試合を選定した．

公式ネット配信映像から関西学生リーグの試合を観察し視認的にパスおよびプレーの種別判断した．パス，プレー数を集計表に随時集計し選手ごと，試合ごとに集計した．

3. 結果および考察

A 選手は 3 試合合計で 105 本のパスを出していた．なかでも横パス 35 本，縦パス 27 本と半分以上をこの 2 つで出していた．攻撃的な A 選手はポジションの位置を中盤でも前の方にとり攻撃の時にはたくさんボールに触りチームの攻撃を作っていた．また抜け出し回数は 5 回と多く見られた．

B 選手は 3 試合合計で 66 本のパスを出していた．守備的な B 選手は A 選手に比べると半分以下のパス本数であった．なかでも横パスは 19 本，縦パスは 15 本と多く用いていた．A 選手より多く見られたのがロングパスで，倍の 10 本を用いていた．守備的な B 選手は中盤で低い位置にポジションをとり，大事な真ん中の場面で相手の攻撃を止める，そしてボールを奪い適当に前に蹴るのではなくそこからうまく味方に繋いで攻撃の起点となっていた．

表 1　各選手とパス種別

	縦パス	横パス	バックパス	スルーパス	ロングパス	クリア	合計
A選手	27	35	14	1	5	4	86
B選手	15	19	5	0	10	2	51
合計	42	54	19	1	15	6	137

表 2　各選手とプレー種別

	サイド攻撃	中央突破	くさび	抜け出し	3人目	合計
A選手	7	3	3	5	1	19
B選手	5	5	4	0	1	15
合計	12	8	7	5	2	34

4. 今後の課題

対象プレー数が少なく，統計的有意差が見られなかった．より選手数，試合数を増やすことでボランチに共通する点，個によって特異な点を明らかにすることができると考えられる．

引用・参考文献

田村友貴(2013)サッカーにおけるゲームメーカーの研究. 平成 25 年度びわこ成蹊スポーツ大学卒業論文集